

●大量の放射性物質を空に海に撒き散らし続けている日本に対して
国際社会からの抗議らしい抗議がほとんど出てこない不可思議

アメリカの黒幕筋がマスコミを操作しているからではないのか？

●臨戦武装した米軍の大艦隊が、事故後わずか二三日で三陸沖に大
学出動してきた不可思議

「トモダチ作戦」は、単なるマスコミ向けの煙幕で、実際は日本
中枢（黒幕筋と総理大臣）への軍事的威嚇が主目的だったのでは
ないのか？

●事故後すぐ、ドイツ・イタリア両国が、余りにも短兵急に脱原発
を国際宣言した不可思議

国連憲章の敵国条項に今なお明記されたままの「日独伊」が、そ
れぞれ同様に不当な圧力をかけられていたのではないのか？

福島原発がらみの不可思議な事象は、これら以外にもまだまだいっ
ぱいありますが、切りがないので割愛します。

5、結び

本緊急警世メッセージを、ここまで読み進めてきた諸氏全員が、心
底あ然としておられると思います。

そして、例えインターネット上とはいえ、こんな恐るべき超異論を
堂々と発表する播磨屋助次郎とは一体何者なんだ、何を企んでいる
んだと、興味しんしんでこの最終章を読み始められたと思います。

しかし期待を裏切って誠に申し訳ないのですが、私は、物騒な考え
など微塵も持ち合わせてはおりません。

実は、私播磨屋助次郎には「福島原発」が事故であっても事件であ
っても、別にどちらでもよいことなのです。

私が本メッセージで心底から訴えたいのは——**こんな恐ろしい事故
が起こったり、また戦慄すべき謀略事件を仕組んだりせねばなら
ない根本原因である、人類相互の優劣競争を全面的に中止して、自然
ながらに平和だった、本来あるべき姿の人間社会に戻してゆきまし
ょう——**ただこれだけなのです。

最後に、日米双方の本件当事者たちに、いえ日米両国の全国民に、
いえいえ全人類一人残らず全員に「本当の日本」の「本然の天皇」
が、近々に全世界に向けて渙発される予定の『救世の詔勅』を予告
紹介して結びとします。

『救世の詔勅』

人生は、人間同士の優劣競争の場ではない。

人類は、人生とは何ぞやの答えをまちがえているのだ。

真実の人生とは、美しい自然の営み（一番は異性）を愛で
楽しみ、その深く大きな喜びを互いに交歓し合いながら、
自然ともども仲睦まじく和やかに暮らすことだ。

そしてまた、何の不安も心配もないそんな暮らしそのもの
が、人生の真の幸せであるのだ。

播磨屋助次郎のプロフィール



昭和23年 兵庫県朝来郡生野町（現在の朝来市）に生まれる。
昭和46年 広島大学工学部船舶工学科を卒業する。
昭和61年 株式会社播磨屋本店を創設し、代表取締役就任する。
平成 5年 現皇太子殿下より赤坂御所に招かれ、論文「環境問題
抜本解決への提言」を殿下ご本人に手渡し献上する。
平成 7年 一般市民への講演活動、並びに皇太子殿下への嘆願市民
運動を開始する。
平成 9年 環境問題の抜本的完全解決のためのパイプとして、唯
一の著書『真実』を発表し市販を開始する。

以降、播磨屋本店の顧客ネットワークをフルに活用しながら、一貫し
て環境問題の抜本的完全解決への具体策を、社会と人々に訴え続けて
現在に至る。その間社業は常に堅調であり、業界ではエクセレントカ
ンパニーとして、その名声は高まるばかりである。



日本一
おかしな
播磨屋本店

日本再生特集号Ⅱ

全国郵送総数50万部